

MACF 礼拝説教要旨

2024 年 4 月 7 日

「永遠の大祭司キリスト」

ヘブライ人への手紙 5 章

5 同じようにキリストも、大祭司となる栄誉を御自分で得たのではなく、

「あなたはわたしの子、

わたしは今日、あなたを産んだ」

と言われた方が、それをお与えになったのです。6

また、神は他の個所で、

「あなたこそ永遠に、

メルキゼデクと同じような祭司である」

とされています。

7 キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その畏れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。

8 キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。9 そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となり、

10 神からメルキゼデクと同じような大祭司と呼ばれたのです。

大祭司の仕事は民のためにいけにえをささげ、民のためにとりなしをすることでした。でも、大祭司も人間ですからまずは自分の清めのためにいけにえを捧げる必要があります。大祭司ではあっても人間的な弱さを持っていることは明らかでした。

イエス様は

神様からその役割を託され

他の大祭司とは違って、永遠的な大祭司として神様から認証を受けた存在でした。

「メルキゼデク」という名前が出ていますが、この人はアブラハムが 10 分の一を捧げて礼拝した、特

別な存在、神秘的な存在です。あとの章で出てきますのでその時に取り上げたいと思います。

さて、この大祭司キリストですが

7 キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、

涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、

その畏れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。

8 キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。

人間としての感覚を持ち、人間としての痛みや悲しみを通過なさいました。

涙を流した記録は福音書の中にかかれています。

さまざまな場所で拒否されたり

生活自体、決して楽なものではなかったと思います。

常に神様を当てにしながら生活しなければやっていけなかったのです。

人々はイエス様の使命に対しては無関心であり、また理解もできませんでした。

イエス様が語った「神の国の福音」も「癒しの奇跡」も現世における「ご利益」を

得ることと同じように理解されることが多く、その背後にある神への礼拝や神への従順、また神様の深い愛と赦しについては、人々はあまり興味を持っていませんでした。

つまり、人々は奇跡を見るためには集まりましたが、イエス様が本当に示そうとした

神様の赦し、神様の愛、そのお方を礼拝しながら、この世の中を耐えながら生きることについては、無関心のままだったのです。その結果が十字架でした。

十字架にかかる前の夜のゲッセマネの園での祈りはとても印象的ですね。ルカによる福音書 22 章にはこう書かれています。

39 イエスがそこを出て、いつものようにオリーブ山に行かれると、弟子たちも従った。40 いつもの場所に来ると、イエスは弟子たちに、「誘惑に陥らないように祈りなさい」と言われた。41 そして自分は、石を投げて届くほどの所に離れ、ひざまずいてこう祈られた。42「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」「43 すると、天使が天から現れて、イエスを力づけた。44 イエスは苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴るように地面に落ちた。」45 イエスが祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに戻って御覧になると、彼らは悲しみの果てに眠り込んでいた。46 イエスは言われた。「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らぬよう、起きて祈っていなさい。」

* *

徹底的に「人を愛し、人を赦し、人と神との間の和解をもたらすために
イエス様は苦しみ、悩み、嘆き、涙を流されました。
でも常に神様への
礼拝者としての姿勢を崩さず、神様への希望と信頼を常に持っておられました。

大祭司イエス様の中にみられる特徴

* 他者の救い(祝福)のための苦しみ: 人への思いやり、優しさ

* 神様への継続的な信頼と礼拝者としての謙遜:
信仰と礼拝者としての意識

* そして、その生き方を全うした「神への従順の完全」:
神との歩みを意識し、大切に
する生き方
そして、それが「あなたのための大祭司、わたしのための大祭司」の生き方でした。

イエス様は、あなたのために「苦しみ、嘆き、悲しみながら、救い主の役割を完全に果たしてくださいました、つまり、あなたのために泣いてくださる大祭司、あなたのために悲しんでくださる大祭司、あなたのために完全に苦難に耐え、救いを提供してくださる

大祭司が今、いてくださるという現実を目を向ける必要があるのです。

わたしは誰からも愛されていないとか、誰もわたしのことなどわかってくれないとか
わたしのためになど誰もケアしてくれないとか、考えがちですが、それはイエス様と出会った時、自分の勘違いだったことがわかります。
あなたのための大祭司イエス様は、あなたのための悲しみ苦しみをになってくださいました。それが現実的な、今、ここで、起こっていることに気づけたらと思います。

そして、さらにいえば、こういうイエス様の生き方は、私たちが学ぶべき姿勢なのですが、それは「善悪を見分ける感覚を経験」することによって得られるものなのだと教えられています。

14 固い食物は、善悪を見分ける感覚を経験によって訓練された、一人前の大人のためのものです。

そしてこの感覚は聖霊によってひとりひとりに与えられており、聖霊は私たちの心に、もし神様の心に適わないものであれば「健全な違和感」を味合わせその感覚を磨いてくださいます。これは義務感としての学びによって習得することよりも、共に生きる現場で習得されるものなのです。

大祭司イエス様に圧倒的に愛されていること、そしてその愛の中で心が整えられ
他者への意識が大祭司と似てくることを楽しみにしながら日々過ごしたいと思います。

* *

youtube での「MACF 礼拝映像」はこちらです。

<https://youtu.be/xsizNI-Ek3g>